

令和5年度



赤羽根の里だより

夏休み



茅ヶ崎市立赤羽根中学校 学校便り

令和5年7月20日(木)

校長 高橋 励

～保護者の皆さまならびに地域の皆さまへ～

4月から始まった令和5年度も三分の一が終わりました。本校の教育活動にご理解とご協力をいただきありがとうございました。8月はほぼ夏季休業。それが終わると、校内は1,2年生へと代替わり。赤中を担います。また3年生は卒業まで残り5か月と少し。一人ひとりが、未来の自分のため一歩を踏み出す準備をこの夏にすることでしょう。それぞれの夏、しっかりと臨めるよう見守ってあげてください。

Dear Student(*^_^*)

己の欲せざる所は人に施すこと勿れ

これは、「論語」という書物の中で、先生と弟子のやりとりの一つとして出てくる言葉。

弟子が先生に尋ねます。「一言で一生実行していく大切なこと(=徳目)というものがあるでしょうか」

それに対する先生の答えは次の通り。

「それは思いやり(=恕)というものだ。自分のしてもらいたくないことは、人にもしないことだ」

「論語」(中学校の国語と社会で出会うはずです)は2500年ほど前から引き継がれてきた書物。その中でも多くの人に説かれてきたこの言葉には、それだけの重みがあります。

これまで、この「赤羽根の里だより」でもたくさんの方の「思いやり」のある姿を伝えてきましたが、このところ「己の欲せざる所」をふざけ半分に「人に施す」赤中生的話をちょこちょこ耳にします。

新学期から4か月。学級でも部活動でも毎日の生活に慣れてきたのか「このくらいなら遊びの範囲」と相手の気持ちを考えずにとった行動が、相手や周りの仲間をととてもイヤな気持ちにさせていることがあるようです。

ちなみに、昔から語り継がれている言葉で「目には目を 歯には歯を」というものもあります(意味は自分で調べてみてください。思っている意味とちょっと違うかもしれません)。この言葉にも歴史の重みがありますが、私はこれをあまり使いたくはありません。なぜなら「思いやり」を欠く行いが改められないまま、人々の不満が高まったときに報復の意味合いを込めて使われることが多いように感じられるからです。

私たちが生活する場で「目には目を 歯には歯を」という考え方を使わずに済むためには、ともに生活している人への「恕=思いやり」の心が大切。「一言で一生実行していく大切なこと(=徳目)」という位置づけに「確かにその通り!」と私はうなずいてしまうのですが、あなたはどうでしょうか?

「学校は間違えながら成長する場所」だと私は思っています。でも、それは「間違っただけでいい」ということでもなければ「人にイヤな思いをさせても構わない」ということでもありません。人は日々成長できます。夏休みに入るこのタイミングで、自分を一つ成長させるために、少し自分の行動をふりかえる時間を作ってみてほしいと願っています。

～保護者の皆さまへ～

夏休み前のかけこみ情報提供!

地域パトロールのご案内

小和田小学校区推進協主催で例年行われているものです。

7月20日(木) 19:00～20:00

8月24日(木) 18:00～19:00

集合・出発は、小和田小学校近くの小和田複合施設。小雨決行で、次の6方面に分かれてパトロールを行い、方面ごとに現地解散になります。事前の申し込みは不要です。お時間が許すようでしたらご参加ください。

- ① 赤羽根方面(新歩道・藤見ファームコース)
- ② 菱沼方面(津戸田・仲良し公園・熊野神社コース)
- ③ 本宿代官方面(五差路・マクドナルド・焼肉キングコース)
- ④ 小和田小学校・複合施設周辺コース
- ⑤ 赤松方面・東小和田公園・YU-ZU ルームコース
- ⑥ 辻堂駅方面(ラズ・神台)公園コース

～響きあい教育シンポジウム～

茅ヶ崎市教育委員会主催で毎年開催されているシンポジウムで申込は明日がメ切。まだ間に合います。北島先生は、児童・生徒から大学生までの幅広い相談活動を通して気づいた、今を生きる子どもや若者が抱える思いや悩みをもとに、オトナのかかわり方や心構えをわかりやすく語ってくださいます。

詳細はこちらから→

遠藤先生は、数値で表せる力(例えば学校の成績など)の育成の土台となる力(非認知の力)について毎年お話をくださいます。

子どもを支えるオトナの在り方を、ちょっと立ち止まって一緒に考えてみませんか?

*次の2点については、改めてCOCOOでお知らせする予定です。ご承知おきください。

1 「神奈川県公立中学校における部活動の地域移行に係る方針(仮称)(素案)について」のパブリックコメント募集

期間:7月14日(金)～8月14日(月)

大人だけではなく、児童・生徒でも意見を寄せることができます。1,2年生は、自分たちが取り組んでいる部活動がどう変わっていくとしているのか、自分の目で確かめて、考えを伝えるチャンスです。ぜひ一度ご覧ください。

2 「夏休みにおける生成AIの活用について」

各教科の課題をはじめ、いろいろなことに取り組む機会が増える夏休み。世の中でも使い方が議論されている生成AIですが、「学ぶためのツール」として学習場面で上手に使ううえでの留意点などを整理したガイドラインが示されました。

インターネットやSNS、携帯電話やスマートフォンなどの通信端末の普及など、新しい技術が世に広まると、新しい課題も併せて出てきます。未来のオトナである子どもたちは、それらと上手に付き合っていく力を身に付けていくものですが、それを見守る今の大人も多少の知識や技能を身に付けておく必要があると思います。

今後の利活用の可能性もふまえ、子どもはもとより、保護者の皆さまにも留意事項の把握をお願いいたします。

では、暑い日が続きますが、ご自愛ください。

教育センター

第13回響きあい教育シンポジウム

先着 60名


子どもの自尊心を考える
～乳幼児期から思春期・青年期の育ち～

2人の講師のご講演&教育長を交えた鼎談

講師
遠藤利彦 氏(東京大学大学院教授)
北島恭美 氏(日本女子大学カウンセリングセンター専任研究員(教授待遇))

日時会場
7月28日(金) 14:30～16:30
茅ヶ崎市青少年会館ホール

申込み
6月22日より ホームページ・電話・FAX ☎(86)9965



↑後日、動画が配信されるそうです!